

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (中国)	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・商品値上げしたにもかかわらず、客数は着実に増えてきている。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	販売量の動き	・前年4月は駆け込み需要の反動減で、売上が大きく減少した。今年4月は前年の落ち込み分の全部とはいかないが、かなりの部分を取り戻している。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・一般客の買物姿勢はまだ変わっていない。ただ500万円を超える美術品やブランド品が売れるなど、富裕層の財布のひもは緩み出している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・客1人当たりの買上点数が徐々に増えており、景気は良くなっている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・客数の推移をみると、3か月前の1月は前年の101%で、4月は前年の106%である。売上についても、1月は前年の102%で、4月は前年の114%である。ただ前年4月は消費税が増税された月であり、注意して分析する必要がある。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・客の眼は新製品や話題商品に集中している。
		スーパー（販売担当）	単価の動き	・当店は固定客の割合が高く、単価の上昇がそのまま売上増につながる傾向が強い。その点で4月は特に中高年の客層で単価及び購買点数が上がっており、現在は一部の客層の現象にとどまっているが、景気の上昇を感じる。
		スーパー（業務開発担当）	販売量の動き	・前年4月は消費税増税直後で売上が落ちていたため、今月の売上増のみで景気が良くなっているとは判断できない。ただ商品単価が上がっている中、販売点数は伸びているので、景気は少しは良くなってきている。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・週末と夕方の売上が伸びている。今までの節約志向が薄れてきて、客に購買意欲がみえる。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・気温上昇に伴い、飲料やクール麺などを中心に販売量は上向きである。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・4月に入って工事関係の客は少なくなったが、それ以外の主婦や年配客が増加した。3か月前と比較して、来客数は明らかに増えており、販売量も伸びている。
		コンビニ（支店長）	来客数の動き	・客数が戻りつつある。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・来客数は増えてきており、売上も伸びている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（所長）	販売量の動き	・4月の売上は消費税増税の影響があった前年に対して、2けたの伸びを示している。特に衣料品や雑貨において顕著であり、客単価も上昇している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・人の動きがはっきりと感じられる。統一地方選挙が終わり、世間も落ち着いてきている。
		一般レストラン（外食事業担当）	単価の動き	・来客数をみると2月は前年の114%、3月は100%弱で、4月は中途であるが前年の103%である。客単価は2月は前年の99%、3月は101%で、4月は前年の105%と、数字的には150円ほど単価が上昇している。夜の宴会の単価が通常は3,000円であるが、4,000円を超える日もあり、また夜の家族客も増加している。
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（店長）	来客数の動き	・やまなみ街道が開通し、明らかに交通量が増加している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・統一地方選挙が終わり、夜の街もにぎわいを取り戻してきた。景気が良くなったせいか、料金を値切る客が少なくなってきた。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・スマホやモバイル系商品への関心は引き続き高く、また拡がりをみせてきている。
	通信会社（販売企画担当）	それ以外	・賃金のベースアップ等を実施する企業が多い。	
	通信会社（総務担当）	販売量の動き	・引越し等により放送・通信サービスの新規加入件数が増加している。また4月から当社では格安スマホサービスを開始したため、この契約件数が新たに増加している。	

	ゴルフ場（営業担当）	お客様の様子	・全体的な来客数はあまり変わらない。ただ2～3年にわたり行事を自粛していた団体が行事を復活したり、バス便を使う利用者が増加しており、イメージとしては景気は良くなっている。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・土地や建物の受注が好調である。消費税増税後の反動減から回復基調がみえ始めている。
	住宅販売会社（営業担当）	来客数の動き	・問い合わせ件数が増えてきており、具体的に住宅購入を検討する方が多い。
	住宅販売会社（営業担当）	お客様の様子	・分譲住宅土地の資料請求や問い合わせが若干増えている。
変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・プレミアム付商品券の発売前の買い控えかどうかかわからないが、来客数が減っている。
	商店街（理事）	来客数の動き	・季節の変わり目でもあり、客の購買意欲がわいている雰囲気はあるが、客からは景気が良くなった感じは受けない。景気が良くもなく悪くもない状態が定着してしまい、その状態に慣れてしまった感がある。
	商店街（代表者）	単価の動き	・消費税増税から1年が経過したが、まだまだデフレ傾向が続いている。売上は前年実績をなんとか確保しているが、安価に設定した商品が動くだけである。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年であれば3～4月は卒業や就職シーズンであり、買物客は自然に増えるが、今年は天候不順で客の動きはあまり良くなかった。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の買物姿勢が2極化している。一度に大量に買い込む客と買い控える客にはっきりと分かれる。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・3か月前と同様に、売上が前年同月から大幅にアップした好調な店舗もあれば、前年実績を確保できない店舗もある。全体としては景気は多少の上向きを維持している。
	一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・新茶の季節となったが、相場は前年より格安で、販売も低調である。業界全体が弱気になっている。
	一般小売店〔印章〕（経営者）	販売量の動き	・4月は年度替わりの関係で注文が多い月であるが、今月の売上は前年から変化はなかった。
	一般小売店〔靴〕（経営者）	単価の動き	・売上が月や季節により大きく変動することはないが、客1人当たりの買上点数が減少している。客がシビアに品物を選ぶ状況が続いている。
	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・4月は前年実績を達成できるかどうか、微妙な状況である。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・比較対象である前年4月は消費税増税直後で売上を大きく落とした月であるが、今年4月の対前年伸び率は厳しい。また3～4月の累計でも、前年を大きく下回っている。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・売上は前年の84%、来客数は前年の71%となった。依然として低迷が続いているが、ヘアサロンやエステ等の固定客相手の店舗では、売上が前年の120%を上回る店もあり、好不調の差が大きくなっている。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・前年4月には駆け込み需要の反動減があったため、今年4月の売上は前年から20%増加している。ただし一昨年とは同水準である。
	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・消費税増税後、1年が経過した。期待している12億円のプレミアム付商品券の利用が始まったが、売上は前年比ではプラスであるが、一昨年比はマイナス基調が続いている。相次ぐ食品等の値上げも消費にはマイナス要因となり、客の堅実消費は更に強まる様相となっている。
	百貨店（購買担当）	お客様の様子	・衣料品については婦人服、紳士服や子供服がともに厳しく、すべてで動きが悪い。客は今あるものを大切に使い、不必要なものはいくら勧めても買わないという状況が続いている。ただ宝飾品については消費税増税前と何ら変わらず、購入する客も多い。
	百貨店（売場担当）	お客様の様子	・前年4月は消費税増税直後で参考にならないため、一昨年との比較になるが、身のまわり品や食品が不振である。特に月後半の物産展の売上が前年の70%前後で推移しており、全体売上に及ぼす影響も大きい。
	百貨店（売場担当）	お客様の様子	・今年4月は駆け込み需要の反動減があった前年から、化粧品を中心に急回復する傾向にある。ただ主力の衣料品は今一歩で、客は必要な高価格商品は既に買っており、ローン支払いの負担感が重い様子である。UVカット関連商品の動きは前年に比べて悪い。
スーパー（総務担当）	単価の動き	・来客数や客単価にはさほど変化がない。	

スーパー（財務担当）	単価の動き	・既存店の来客数及び買上点数はほぼ前年と変わらないが、売上は1点単価の上昇により前年を上回る状況が続いている。	
スーパー（管理担当）	販売量の動き	・前年3月には駆け込み需要による売上増があったため、前年4月は落ち込みが大きかった。その分、今年4月は前年比が上昇すると踏んでいたが、思っていたほどは伸びなかった。	
コンビニ（副地域ブロック長）	来客数の動き	・直近3か月の客数トレンドをみると、前年に比べて下回っている。	
家電量販店（店長）	販売量の動き	・テレビ等のAV機器の動きが悪い状態が続いている。また天候が暑いにもかかわらず、エアコンや冷蔵庫等の白物家電の売上も上がらない。	
家電量販店（店長）	来客数の動き	・客数や単価が若干、低下気味である。ボーナス商戦までは厳しい状況が続く。	
家電量販店（販売担当）	来客数の動き	・前年実績が低すぎるので景気が良いようにみえるが、実際には景気は良くない。	
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・販売量は微増と微減を繰り返して推移している。	
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・4月になり販売量は前年の115%と多少良くなっている。しかし前年4月は消費税増税で販売量が大きく落ち込んだ月であり、前年を多少上回ったといっても本調子ではない。	
住関連専門店（営業担当）	来客数の動き	・前年よりも数字は良いが、前年4月は駆け込み需要の反動減で数字が悪かったためである。決して景気は良くない。	
その他専門店〔和菓子〕（経営者）	販売量の動き	・売上の増減に影響するような事象が見当たらない。	
その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・地方は企業も少なく、年金生活者が多い。そうした人は毎日、消費税増税による負担増を実感しており、消費活動が弱まっている。	
その他専門店〔ファッション雑貨〕（従業員）	来客数の動き	・来客数は3～4月と連続して前年割れである。しかも一昨年の実績をも下回っており、特に平日の落ち込みが激しい。	
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・4月は先月に比べて、夜の利用、特に接待等の法人利用が減少した。来客数がやや悪い状況が続いている。	
観光型ホテル（支配人）	販売量の動き	・外国人旅行者を中心に宿泊数は回復しつつあるが、宴会部門やレストラン部門では売上は上がっていない。	
都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・宴会等では客単価がなかなか上がらず、前年並みの単価の注文が多い。レストラン等もほぼ同じである。	
都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・宿泊部門では欧米やアジアなど海外からの客が依然として好調に推移している。宴会は企業宴席が低調である。レストランは前年度は低調なまま推移したが、ようやく下げ止まる傾向である。	
旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・グループ旅行の動きはあまり良くないが、個人客の動向は徐々に良くなっている。	
タクシー運転手	来客数の動き	・本来4月は歓送迎会等で人の動きが多い月であるが、前年に比べて今月は客数が少ない。	
通信会社（広報担当）	販売量の動き	・新生活需要の時期であるが、特別に販売数が伸びているとは感じない。	
通信会社（工事担当）	お客様の様子	・特に景気の大きな変化は感じない。	
テーマパーク（管理担当）	来客数の動き	・入館者数や商品販売高等をみると、前年同月比に変動がない。	
テーマパーク（営業担当）	来客数の動き	・団体ツアー客が極端に減っている。また土産物も売れない。	
美容室（経営者）	お客様の様子	・客の勤め先や経営する個人商店の景気が良いが、個人の賃金には反映されていないため、財布事情は厳しいままであるという話をよく聞く。	
美容室（経営者）	競争相手の様子	・景気が良くなる兆しはみえない。商店街のなかで話しても、全員が同意見である。	
やや悪くなっている	一般小売店〔酒店〕（経営者）	販売量の動き	・4月はゴールデンウィークを前にして、客が飲食を控えるためか、例年この時期は料飲店の販売量が下がる。ただ今年はその傾向が特に顕著に表れている。
	百貨店（営業推進担当）	販売量の動き	・4月に入っても消費税増税の影響が続いている。売上は想定したほど向上せず、部門によっては前年割れのところも出ており、全体の上昇基調を食いつぶしている。

		衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・商品が売れない。
		衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・来客数が少なくなっている。個々の客の購入額は変わらないが、客数が少なくなっているため売上は厳しい。買う余裕のある客とそうでない客との差が大きくなっている。
		乗用車販売店 (店長)	競争相手の様子	・来客数も販売台数も前年から大きく落ち込んでいるわけではない。ただ景気が良かった時期に比べると、他社と競合する商談は少なく、客から競合車種の話が出てくる場面もほとんどない。
		一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・山陰では地方経済の低迷が続いている。プレミアム付商品券に期待するが、まだ中小企業ではベースアップ等が実施されておらず、客の外食比率が下がっていると感じる。
		一般レストラン (店長)	単価の動き	・前年と比べて、単価のダウンが大きい。高単価商品よりも低単価商品に注文が集中しているように感じる。
		旅行代理店(営業担当)	販売量の動き	・前年比で取扱額が減少している。
		競艇場(職員)	販売量の動き	・3か月前はG1レースが開催されていたため、それに比べると4月の売上はやや悪かった。
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・官公庁が発注する工事が減少し、単価の低下も著しい。
		設計事務所(経営者)	来客数の動き	・4月も新築住宅の引き合いがなかった。省エネエコポイント制度が開始されたが、今のところ効果は表れていない。
		設計事務所(経営者)	競争相手の様子	・同業者と話しても、受注が減少している会社が増えている。
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・ここ最近、住宅等新築の設計依頼がほとんどない。
	悪くなっている	商店街(代表者)	お客様の様子	・国や県には商店街が置かれた現状をしっかりと理解して欲しい。
		自動車備品販売店(経営者)	販売量の動き	・4月も売上が伸び悩んでいる。ますますタイヤ業界では値引競争に拍車がかかり、メーカー直営店以外はやっていけない状況に追い込まれつつある。小利益かつ少量販売で、消費税増税分の価格転嫁どころではない。
		自動車備品販売店(経営者)	販売量の動き	・3月の年度末セール後は、商品の動きが悪い。また消費税増税後はずっと、売上の前年割れが続いている。
		その他専門店 [時計](経営者)	販売量の動き	・4月前半は天候不順の影響もあり、来客数が少なく苦戦した。月後半にやや売上を戻したが、厳しい月であった。
		その他専門店 [海産物](経営者)	それ以外	・来店客の減少が変わらない。当店は日帰り団体客の立ち寄りが継続的にあるため助かっているが、これがないければ悲惨な結果である。
企業 動向 関連	良くなっている	輸送用機械器具 製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・自動車メーカーからの受注は相変わらず多く、景気は良い。
(中国)	やや良くなっている	農林水産業(従業者)	それ以外	・3月を3か月前の12月と比較すると、水揚げ量は14tの増加、水揚げ金額は6,300万円の増加であった。水揚げ量の増加理由は沖合底引き漁や中型巻き網漁の増加で、水揚げ金額の増加理由は大中型巻き網漁の増加である。3月単月の前年比は、水揚げ量が600tの増加で前年の142%、水揚げ金額が8,800万円の増加で前年の129%であった。水揚げ量と水揚げ金額の増加理由は沖合底引き漁や中型巻き網漁の増加である。
		金属製品製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・得意先は省エネ補助金により引き合いが多くなっている。得意先が機会損失を避けるため、当社への受注は例月の50%増となった。得意先としては仮に失注しても、補助金以外の受注が見込めるとの話である。
		輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・個人消費の分野ではコンビニへの荷物持ち込み量が増加するなど、個人客の荷物は回復傾向がみられる。企業の荷物は九州方面からの荷量が若干伸び悩んでいる。また大口からの荷量は堅調であるが、小口が停滞気味である。
		輸送業(経理担当)	受注価格や販売価格の動き	・物流量が増加しており、また料金改定交渉が順調に進む客も出てきた。

		金融業（貸付担当）	受注量や販売量の動き	・前年同時期は消費税増税直後であり、取引先の受注量や販売量の落ち込みが顕著であった。前年比はそれがベースとなるため今年4月は前年から改善しているし、また総体的にみても景気は良くなっている。	
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・客の受注予約状況を見ると、多方面の事業者から受注増があり、客に販売促進拡大の動きがある。	
変わらない		木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・前月比でみても前期比でみても、受注量が回復したとは言えない。	
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・決算もほぼ予算どおりで仕上がっている。ただ前期から大きな伸びはなく、今後も伸びは期待できない。	
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・大型の建設案件は終了したが、小口物件が集中しているため業務の多忙感が続いている。短納期品もあり、時間外労働で対応した。	
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は前期と変わらない。国内全体の経済環境からすれば、健闘している。	
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・資機材費や人件費の高騰はあるが、受注量は順調に推移している。	
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・特に売上に変動はない。	
		通信業（営業企画担当）	取引先の様子	・製造業でも流通業でも、今年度の情報通信関連の投資計画についてヒアリングすると、前年度に比較して控えめな客が多い。	
		金融業（自動車担当）	取引先の様子	・地元の自動車メーカーとその協力部品メーカーの受注は、高水準を持続している。コスト削減効果もあり、過去最高益を記録し、ベースアップとボーナスについて増額回答する企業が多い。	
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・建設業関連では人手不足のため、賃金が上昇している。そのため中小零細企業では原価が上昇し、利益が減少している。受注件数は徐々に増えているが、受注単価は相変わらず抑え気味であるため、売上や利益は思ったほど出ていない。	
やや悪くなっている		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月間、OEM生産が芳しくない状態が続いているため、予算の組み直しを進めている。	
		繊維工業（統括担当）	受注量や販売量の動き	・新学期商戦において、販売数量が予想より落ち込んでいる。	
		化学工業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・硫黄由来商品の値上げ交渉が難航し、交渉の長期化とともに値上げ幅が限定的となっている。粗利益率が低下して、収益への影響が大きい。	
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・冬に入ってから自動車関連製品の受注が下振れしている。4月の受注も予算の95%と、やや低迷している。	
		鉄鋼業（総務担当）	取引先の様子	・取引先が在庫調整局面に差し掛かっており、当社も減産対応が必要になっている。	
		電気機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・大手取引先は消費税10%へのステップを早くも見込み、円安による原材料のコストアップ分の販売価格への転嫁を容認してくれない。また同業者との価格競争も熾烈になっている。このような状況下では企業防衛に走らざるを得ず、賃上げどころではない。	
		不動産業（総務担当）	それ以外	・賃貸物件の需要時期を過ぎたため、来店数や成約件数は減少している。	
悪くなっている		食料品製造業（総務担当）	競争相手の様子	・同業種の廃業や倒産が増えている。	
		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・引き続き製造品の難易度が上がる一方、円安と諸経費の高騰が続いている。当社は海外から部品を仕入れるため、顕著に円安の影響を受ける。また人件費は上昇し、国内調達の諸材料も円安でアップしている。グローバルな競争激化により、海外工場とも競合するため売価はそんなに上げられないことが影響し、今後も赤字が続く。	
(中国)	雇用関連	良くなっている	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・紹介予定派遣が前年同月の倍近くに増加しており、企業側の採用意欲の高まりがみられる。また求職者数も減ってきており、派遣人材が不足するほど採用が進んでいる。
		やや良くなっている	求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・製造業を中心に、採用予定数を上回って内定を出す動きが強まっている。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	採用者数の動き	・新卒採用の会社説明会などをみると、今年の採用枠は各社とも前年の約1.5倍程度となっており、かなり積極的に動いている印象を受ける。	

	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	雇用形態の様子	・ 出店後 1 年の洋服雑貨店では店員が次々に条件が良い店に移るため、困っている。新たに応募してきた中学卒の 17 歳女子の採用に当たり、採用に難色を示す本社に対して雇用条件を上げないと店員の確保は無理であると談判している。小売業やサービス業のアルバイト採用にとって、人手不足は深刻である。
	職業安定所 ( 産業雇用情報担当 )	求職者数の動き	・ 新規求職申込件数が 2 か月連続で前年同月を上回っている。新規求職者の態様別をみると、事業主都合離職者が減少し、在職者及び無業者が増加している。これは景気回復を反映して、非正規から正社員を希望する在職者や無業者に求職活動の動きがみられることが要因と思われる。
	民間職業紹介機関 ( 職員 )	採用者数の動き	・ 従業員 5 名以下の小規模企業からも有料職業紹介の依頼が入るほど、世間は採用難になりつつある。小企業では高コストな人材紹介サービスは敬遠されがちであるが、コストをかけてでも採用を急ぐ状況にある。
	学校 [ 大学 ] ( 就職担当 )	求人数の動き	・ 中小企業を中心に求人が増えている。
	その他雇用の動向を把握できる者 [ 労働機関 ] ( 職員 )	求人数の動き	・ 求人は人手不足が常態化している医療・福祉関係で大幅に増加している。有効求人倍率も 3 か月連続して 1 倍台をキープしたが、前月比では低下しており一服感がある。
変わらない	人材派遣会社 ( 経営企画担当 )	求職者数の動き	・ 企業の派遣ニーズは高まってきており、景気は回復しつつあると感じる。求職者数も米国の大手金融機関の破たん以前の数に戻ってきている。一方で派遣決定は難しくなっている。引き続き、企業側と求職者とのギャップ解消に苦戦しそうである。
	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	雇用形態の様子	・ 求職者数は減少しており、雇用環境は改善している。また地場の大手企業は来年度の新卒採用数を増やす計画である。ただ地方では景気回復の恩恵を受ける企業はほとんどなく、中小企業では採用を増やすところは少ない。
	職業安定所 ( 産業雇用情報担当 )	求職者数の動き	・ 新規求職者数は 2 ~ 3 月と年度末で増えているが、求人倍率は 1 倍を超えており、景気が悪くなった感じは受けない。
	職業安定所 ( 雇用開発担当 )	求人数の動き	・ 新規求人数は高水準で安定している。求職者数も下げ止まりの感があり、求人倍率は引き続き高い状況である。
やや悪くなっている	人材派遣会社 ( 支社長 )	求人数の動き	・ 企業側と求職者が求める条件の間で、ギャップが大きくなりつつある。求人数や求職者数自体は横ばいで推移しているが、マッチングに至るケースが減少傾向にある。
悪くなっている	-	-	-